

## 公開情報 2015年1月～12月 年報

### 院内感染対策サーベイランス 新生児集中治療室部門

#### 【新生児集中治療室（NICU）部門におけるサーベイランスの概要と目的】

本サーベイランスの目的は、新生児集中治療室（NICU）で発生する院内感染症の発生率とその原因菌に関するデータを継続的に収集・解析し、NICUにおける院内感染症の発生状況等を明らかにすることである。

サーベイランスの対象としている感染症は、敗血症、肺炎、髄膜炎、腸炎、皮膚炎、その他であり、対象とする原因菌はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）、メチシリン感性黄色ブドウ球菌（MSSA）、コアグララーゼ陰性ブドウ球菌（CNS）、緑膿菌、カンジダ、その他である。これらのデータを出生体重別、感染症別、原因菌別に集計し、NICUにおけるベンチマークとなる情報を提供している。

#### 【図表】

1. 出生体重別入院患児数・感染症発症患児数
2. 菌種別感染症発症患児数
3. 感染症分類別感染症発症患児数

#### 【解説】

1. 出生体重別入院患児数・感染症発症患児数

2015年 年報（2015年1月～12月）では100医療機関からデータの提出があった。総入院患児数22,658人中、789人（3.5%）が感染症を発症した。

出生体重別の感染症発生頻度は、超低出生体重児（～999g）では1,221人中264人（21.6%）、1000g～1499gの児では1,538人中92人（6.0%）、1500g以上の児では19,899人中433人（2.2%）であり、超低出生体重児（～999g）が最も高かった。

2. 菌種別感染症発症患児数

感染症発症患児789人の感染症原因菌は、MRSA 93例（11.8%）、CNS 83例（10.5%）、MSSA 82例（10.4%）とブドウ球菌属が全体の3割超を占めた。次いでカンジダ32例（4.1%）、緑膿菌27例（3.4%）と続いた。またその他の菌種の報告は248例（31.4%）、菌不明は224例（28.4%）であった。

## 公開情報 2015年1月～12月 年報

### 院内感染対策サーベイランス 新生児集中治療室部門

#### 3. 感染症分類別感染症発症患児数

感染症発症患児 789 人の感染症分類は、敗血症 259 例（32.8%）と肺炎 197 例（25.0%）が全体の 6 割近くを占め、皮膚炎 46 例（5.8%）、髄膜炎 32 例（4.1%）、腸炎 28 例（3.5%）と続いた。

2015 年のデータが未提出の 7 医療機関は集計対象外とした。下記の基準に該当する医療機関に問い合わせを行った結果、集計から除外した施設はなかった。

#### データの精度管理

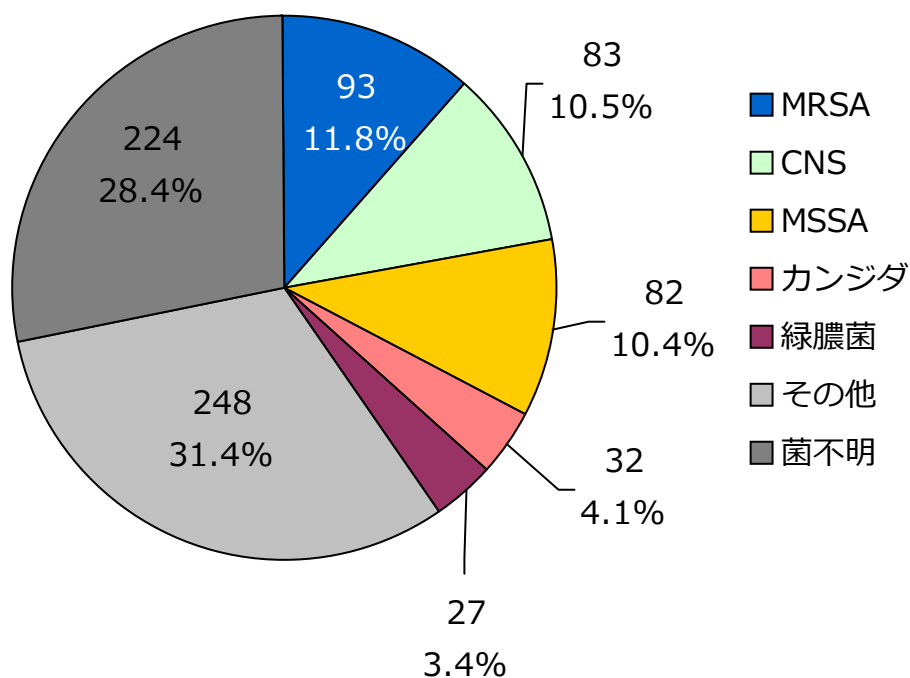
- 菌種別および感染症別の年間発生率が高く逸脱している（極値）。
- 年間入院患児数の報告がない。

## 1. 体重別入院患児数・感染症発症患児数

体重	入院患児数	感染症発症患児数	感染症発生率
～999g	1,221	264	21.6%
1,000～1,499g	1,538	92	6.0%
1,500g～	19,899	433	2.2%
合計	22,658	789	3.5%

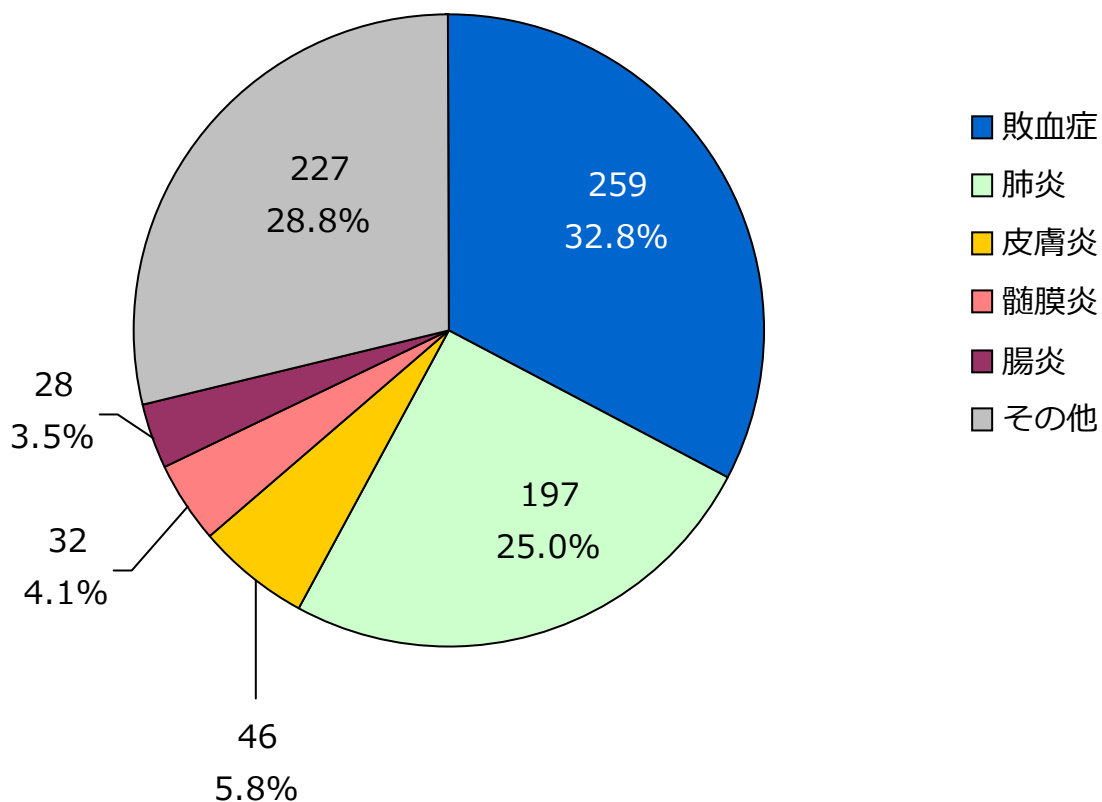
(集計対象医療機関数：100)

## 2. 菌種別感染症発症患児数 (N = 789)



(集計対象医療機関数：100)

### 3. 感染症分類別感染症発症患児数 (N = 789)



(集計対象医療機関数 : 100)